

進捗状況の概要 ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1ページ】

学長の強いリーダーシップに基づく抜本的な大学改革

○ガバナンス改革による事業実施体制構築

大学改革断行の司令塔である大学改革推進委員会の下に学長を委員長とする SGU 推進委員会（現・推進会議）を設置し、学長主導で迅速かつ強力に国際化、大学改革を断行。事業採択後に定めたロードマップ「ロケットスタート計画」（H26～）及び後継の「スイングバイ計画」（H30～）で具体的な活動を明確化し、グループリーダーの指揮の下、全学体制で円滑に事業を推進してきた。外部評価委員会やステークホルダー協議会など外部の意見を取り入れて PDCA サイクルを回し、経常的に計画改善や事業効率化に取り組んだ。

○KUGS に基づく新カリキュラムの導入

平成 28 年度に国際基幹教育院を設置し、「金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）」に基づく新カリキュラムを構築。同時に導入したクォーター制による柔軟な学事暦の下、日本人学生が留学しやすく、外国人留学生を受け入れやすい環境を整備した。アクティブ・ラーニングの推進や授業英語化による教育の国際標準化、学修成果の多元的評価法確立にも取り組み、全ての学生が KUGS で示す能力を修得できるカリキュラムを実質化し、共通教育の国際化が加速度的に進展した。

○「金沢大学ブランド人材」育成を担う教育組織の再編

社会の変化に対応した教育組織の見直しを行い、平成 30 年度に 3 学域 17 学類に再編した他、令和 3 年度には分野融合型の教育を行う「融合学域（仮称）」を設置予定である。大学院課程では、平成 30 年度以降「新学術創成研究科融合科学共同専攻」「同ナノ生命科学専攻」「ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラム」を設置し、分野融合型研究や国際共同研究に基づき、高い専門能力、国際就業力を備えた高度専門人材を養成している。

英語力を磨き、英語で学び、英語を使って交流するキャンパスへ

○金沢大学スーパーグローバル ELP（English Language Programs）センターによる全学英語力強化

平成 27 年度に米国・タフツ大学（本学協定校）と連携して「金沢大学スーパーグローバル ELP センター」を設置し、教員・職員・学生向け英語研修プログラムの実施により全学的な英語力向上に大きく貢献した。

○全学的な授業英語化の推進

ELP センターにおける教員向け研修並びにスキルアップセンターが提供する FD 研修及び教授法マニュアルを通じて教員の英語教授能力の向上を図った結果、英語で実施される授業科目の割合は全体の約 30%（事業当初 3.4%）と飛躍的に増加し、英語だけで卒業できるプログラム数は計 52 コース（事業当初 18 コース）まで拡充された。英語による授業やプログラムが国際通用性を備えた人材育成に寄与している。

○英語に強い金大生の育成

新カリキュラムにおける英語科目（共通教育「GS 言語科目」、専門教育「学域 GS 言語科目」）においてプレゼンテーション、アカデミックライティング及びリサーチのスキル向上に力を入れた他、在学中 2 度の英語外部試験受験を必須化した結果、指標とする TOEIC760 点以上を満たす学生数は順調に増加している。令和元年度には、より一層の英語力強化を目指すため「ファイア・アップ計画」を策定した。

海外ネットワークを使って「在学中に海外留学」が当たり前の大学に

○海外拠点をハブとした重層的な教育研究ネットワークの構築

重点交流校又は重点交流地域として選定した米国、ベルギー、タイ、中国の大学等に本学海外拠点を設置した他、ドイツ、ロシア、タイ等の協定校にも海外事務所を開設した。海外拠点を活用した大規模派遣プログラムの構築、ジョイントシンポジウムや研究交流会の開催、教職員の相互交流を通じて、多面的かつ重層的な連携協力の下、教育研究ネットワークを構築してきた。

○留学サポート体制の充実化による海外派遣の強力な推進

海外拠点を活用した海外派遣プログラムの開発推進、海外派遣を一元的にサポートする「スタディアブロードオフィス」の設置、本学独自の「スタディアブロード奨学金」による経済的支援の拡充により、令和元年度には卒業時まで海外大学等で学修経験をもつ学生の割合が 30.5%（学生全体のおよそ 3 人に 1 人が留学経験者）となり、国際通用性を備えた「金沢大学ブランド」人材の輩出に繋がった。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

学長の強いリーダーシップに基づく抜本的な大学改革

○KUGS が目指す人材獲得に向けた入試改革

平成 30 年度入試から「文系一括、理系一括入試」を導入し、1 年次に幅広い分野に触れて視野を広げ、アカデミック・アドバイザー等によるサポートの下学類へ進級する効果的な Late Specialization を実現した。令和 3 年度入試からは、「KUGS 高大接続プログラム」と連動して KUGS に適った人材を受け入れる「KUGS 特別入試」及び数学・文学に秀でた人材を受け入れる「超然特別入試」の実施を予定しており、KUGS の理念を入試から卒業・修了まで一貫させることで「金沢大学ブランド」人材の育成を推進する。

○人事制度を活用した戦略的な人材確保

教員募集における国際公募や英語による授業担当必須化の明記により、外国人教員や豊富な国際経験を有する日本人教員を増員し、授業の英語化や教育の国際標準化に繋げた。また、研究に専念する教員を配置する「リサーチプロフェッサー制度」と年俸制やクロスアポイントメント制をあわせて活用することで国内外の優秀な研究者を獲得し、研究力強化に繋げた。その結果、「ナノ生命科学研究所」構想が平成 29 年度文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI 事業）に採択され、世界を牽引する国際的な教育研究拠点の形成に向けた礎を着実に築き上げている。

○地域「超」体験プログラムによる人間力強化の推進

平成 26 年度から試行した「地域『超』体験プログラム」では学長自ら合宿に参加し、学生とともに地域の人々との交流を通じた人間力強化を体現している。平成 30 年度より同プログラムの理念を拡充した「協働的体験教育プログラム」の枠組みを開始し、選定されたボランティア活動や体験合宿へのポイント付与及び修了認定を行っている。いずれにおいても「他者と共生する態度」が必要であるとの認識に立ち、KUGS で掲げる 5 つの能力に加えて体力、及び人間力を備えた人材を育成している。

英語力を磨き、英語で学び、英語を使って交流するキャンパスへ

○ELP センターにおける本学独自プログラム開発

ELP センター開設以来 4 年間の実績を総括した上でタフツ大学との連携を発展的に解消し、令和元年度により受講者のニーズに沿った本学独自の英語力強化プログラム「KUELP」を開発した。将来的には地域への横展開も視野に入れ、プログラムの実施と継続的な改善に取り組んでいる。

○キャンパスの国際化の推進と日本人学生と外国人留学生の交流

附属図書館に設置した「国際交流スタジオ」等で実施している「English Hour!」「English Cafe」や、学生の英語力強化をサポートする「英語学習アドバイザー」主催のイベント等、日本人学生と留学生が英語を使って交流する機会を設け、国籍や専門分野を超えた交流を促進している。平成 29 年 3 月には混住型宿舍「北溟」を新設し、既存の「先魁」と合わせて約 300 人の居住が可能となった他、第 3 期の混住型宿舍の計画も策定し、日本人学生と留学生がともに生活する環境を拡充している。ポータルサイトや学内標識の二言語化を追い風に、正課内外で英語を活用する環境が形作られ、キャンパスの国際化が進展した。

海外ネットワークを使って「在学中に海外留学」が当たり前の大学に

○コラボラティブ・プロフェッサー（CP）の多方面での活躍

海外大学の教育研究職に就いた卒業生・修了生等を CP に任命し（令和元年度末時点で 162 人）、海外拠点等を活用して本学からの派遣学生の支援や留学生のリクルートに従事している。本学で受入れた留学生が CP となって留学生獲得に寄与するという好循環が生まれた。また、CP による海外拠点の開設や留学フェア開催への積極的な関与により、本事業によって生み出された人的ネットワーク拡大が日本留学海外拠点連携推進事業や大学の世界展開力強化事業といった他の国際交流事業の推進にも波及している。

○KU-SGU Student Staff による学生目線の海外留学促進

平成 28 年度に本事業の推進に協力する学生組織「KU-SGU Student Staff」が発足し、留学制度説明会や留学経験者と希望者との相談会、海外の大学院で学ぶ卒業生を招いた講演といった本学学生向けのイベントを実施している他、高校生向けの「高大接続プログラム」や市民向け公開講座の企画にも携わり、留学推進を始めとする本事業の推進に学生が主体的かつ積極的に参画している。